

竜の子奨学生

第29号
Aug.2022

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



第41回交流会 第15回卒業式・第16回贈呈式にて



第41回交流会 第15回卒業式・第16回贈呈式にて



SPECIAL REPORT II より

CONTENTS

- ② 卒業生の「現在の夢」
- ③ 第41回交流会レポート
- ⑥ 令和四年度 新入生紹介
- ⑨ 竜の子近況報告
- ⑬ 竜の子 (OB・OG) 近況報告
- ⑭ SPECIAL REPORT I
- ⑮ SPECIAL REPORT II
- ⑯ 編集後記



公益財団法人 竜の子財団
Tatsunoko Foundation

現在の夢



ソン チャンソク
宋 昌錫

1977年 韓国ソウル生まれ
2004年 日本留学
2009年～2010年
竜の子財団在籍
2010年 東京大学大学院農
学生命科学研究科
博士（農学）取得
2022年 早稲田大学大学院
経営管理研究科
MBA取得
現在 前田建設工業株式会社
ICI総合センター シニ
アプロデューサー

「夢」や「希望」を持てばそれは必ず叶う。

子供の頃の夢は博士になることでした。成長と共に、その夢のことは忘れていたのですが、気づいたらいつの間にか博士になっていました。何になりたい、何処かにいきたい、何かをしたい、何処に住みたいと夢見る時期がありますが、その時はまさか叶うとは思えない遠い夢だったりします。しかし、その当時思った夢が自分の中で潜在的に行動の変化を起こしているのか、不思議といつのまにか自分の夢が叶っていることに気付きます。もちろん子供の頃は情報が不足していたので「宇宙工学を勉強して宇宙に飛ばすすごい人工衛星を作る博士になるんだ！」といった具体的な設定のある夢ではありませんが、博士になるという方向性は合っています。ある日、自分の子供の頃の夢が叶っていると気づいた瞬間はすごく嬉しかった記憶があります。

竜の子財団にお世話になってから持つようになった夢は、自分もいつか事業に成功し奨学財団を設立して金銭的に困っている学生を支援することです。竜の子財団に在籍していた年は自分にとって精神的にも金銭的にも辛い時期でした。しかし財団からの奨学金や交流会等の支援により両方の問題が解決され、大変辛かった時期を何とか乗り越えることができました。おかげで子供の頃の夢をはじめ色々な夢を叶えることができたのだと思います。自分が受けた恩恵をまた次の世代に繋ぐことを目指して一步一步進んでいきます。その夢を叶える一歩として、博士課程を修了後10年ぶりに大学院に再度入り、マネジメントに関する勉強を始め、今春MBA学位を取得しました。いつの日か気づいた時には色々な夢を持つ留学生たちを支援していることを夢見ながら前に進んでいきたいと思います。

ご寄付いただいた皆様へ

この度、竜の子奨学生を代表し、ご寄付をいただいた皆様に深くお礼を申し上げます。私たちはそれぞれの夢を抱いて、世界各地から日本に留学にきました。しかし、日本における高額な学費と生活費を賄うために、学業とアルバイトに追われて大変苦勞を強いられていました。竜の子財団の皆様のご支援のおかげで、私たちは学業・研究に専念できると共に、毎年開催される交流会において日本の社会・文化にたくさん触れる機会を得て、とても充実した留学生活を送ることができています。財団の交流・活動を通じて、私たちは異文化に対する視野を広げつつ、他の奨学生からいつも新しい刺激を受けています。財団の皆様から頂いたご支援を自らの夢をかなえる力へと変えて、国際社会へと貢献できるよう頑張ります。

最後にもう一度、皆さんからお寄せいただいた暖かいご支援に心よりお礼申し上げます。

（平成30年度竜の子奨学生 北海道大学 王 佳寧）

第41回交流会レポート

● 第15回卒業式 ●

令和4年3月25日（金）、東京・八芳園本館にて竜の子奨学生4名が竜の子財団を卒業する日を迎えました。卒業生は着物で入場し、秋元理事長からの式辞をいただきました。卒業生代表の挨拶でファウズィアさんが寄付者および関係者の皆さまへ心より御礼を申し上げました。

理事長挨拶

秋元 竜弥 理事長

本日新しく選ばれた奨学生の方、そして卒業生の方、本当におめでとうございます。この財団は今年16年目を迎えます。この奨学財団をつくったきっかけは、日本に来て



式辞を述べる秋元理事長

いる留学生の現実を聞いたからです。かなりの学生が日本に来て勉強をしていますが、その多くがアルバイトに時間をとられ学力が低下し、夢を叶えられず母国に帰ってしまいます。そこで、経済的に貧しくて困っており、学力が優秀な学生に手を差し伸べようと思いました。私は経済的に恩恵を受けたのでこの社会にお返しできるものはないだろうかと考えつ

くったのがこの財団です。
今日まで400名を超える学生を受け入れてきました。この財団の特徴は、交流会に重きを置いていることです。皆

さんに奨学金を渡すだけではなく、対話、コミュニケーションを取るために、卒業式、贈呈式を含めて年に3回の交流会を行っています。そして、この財団のモットーである「その夢はきっと世界を変えていく」を皆さんには念頭に置いていただき、日本と皆さんの母国の架け橋になって、最終的には世界に貢献できる人材育成を目指しております。ここ2、3年、感染症の問題、そしてウクライナ、ロシアの問題、紛争がいつまで経っても止まりませんが、私たちは戦争もなく、体も健康で、恵まれた環境の中で生活できています。その感謝の気持ちを忘れずに、日々頑張ることが大切です。そして卒業生の方、素敵なお着物を着て卒業を迎えられたこと、幸せなことだと思っております。どうか母国のご両親、親戚に写真を送ってあげてください。初心を忘れるべからず、進路はそれぞれ皆んな違うと思いますが、社会に役立てる人間になって下さい。これが私からの奨学生を迎える言葉と卒業生に送る言葉です。ありがとうございました。



● 第16回贈呈式 ●

同日、八芳園本館にて第16回贈呈式が開催されました。第16期は7名の留学生たちが、新たに竜の子奨学生として迎え入れられました。権 懺宰さんが新入生を代表して感謝の気持ちとこれからの決意について話しました。

新入生代表挨拶

クオン ヒョッチェ 権 懺宰

私は名古屋大学工学研究科のクオン・ヒョッチェと申します。本日は竜の子奨学財団の贈呈式で演説する機会をい

ただき、心より感謝申し上げます。私は幼い頃から日本の文化や人々の思いやり、先進技術など見習うところが多いと感じ、高校の時から留学を準備していました。そして機械工学科を卒業後、私の夢を実現させる研究をするため大

学院進学を決めました。しかし、一人で家族を支えていた父が一昨年引退し、大学院に進学することが難しい状況になってしまいました。そのような中、竜の子財団からご支援いただき、学業を続けることができました。



新入生を代表してスピーチする憐幸さん

私の夢は私の研究で人々の暮らしを豊かにすることです。現在は運転支援技術を発展させ、ドライバーと歩行者の安全を守るという目標を持っております。竜の子財団は私に研究と学業に邁進できる環境を作って下さり、夢を実現できるようにして下さいました。大学院期間中に研究活動に没頭し、自分の夢に近づきたいと思っております。

最後に、私を竜の子財団の奨学生として採用していただいたことに改めて感謝申し上げます。これから財団の方々と奨学生の皆さんと沢山交流し、国際友好親善及び社会に貢献できる人材に成長していきたいと思っております。

卒業生代表挨拶

ファウズィア カマリナ

皆さんこんにちは。今年度卒業する4名の竜の子奨学生を代表いたしまして、一言述べさせていただけます。



卒業生を代表してスピーチするファウズィアさん

私は2020年に竜の子財団奨学生として採用されました。この時は、コロナが始まったばかりで、本当に大変な時期でした。コロナの感染拡大で、イベントの中止が相次ぎ、贈呈式や卒業式なども無くなり、残念でした。竜の子財団の方々とはい、ズームで初めて会いました。その時は、理事長に自己紹介のビデオを送りました。覚えていらっしゃるでしょうか。

あっという間に2年が経ち、卒業を迎え、暖かい日の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たちは日本での学生生活を終え、卒業の日を迎えることになりました。私たちは、旅立ちの日を迎え、新たなスタートを迎えることができ、大変嬉しく思っております。

私は、4年前日本に留学生として来ました。当時はなかなか友達ができませんでした。その時は、日本語を練習す

れば、絶対日本人の友達ができと思っていたのですが、想像以上に、友達を作るのは難しかったです。しかし、4年生になると、研究室の皆さんと遊びに行ったり、スノーボードに行ったりできるようになりました。これをきっかけに、日本での生活が楽しくなり大学院に行くことを決意し、竜の子財団奨学生となりました。

卒業生の仲間にはおめでとうの言葉を送りたいと思います。今日卒業し、それぞれ別の道に進むわけですが、ぜひ財団で出会った仲間達を大切にしましょう。私たちには無限の可能性ががあります。ぜひ夢に向かって元気に頑張っていきましょう。そして、竜の子財団の皆様、経済的な支援だけではなく、交流会を開催して下さいありがとうございます。私たちは色々な国の奨学生や先輩たちに会い、日本語の能力とコミュニケーション能力も高まりました。奨学生の皆さんは恐らく一人一人て必死に頑張っていると思いますが、今後は一人の力でどうにもできないこともあると思います。それを支援して下さる竜の子財団があることを覚えていてほしいと思います。最後に、秋元理事長をはじめとする竜の子財団並びに、来賓の皆様、卒業生代表として、重ねてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

乾杯の挨拶

新入生の皆さんは、今年はずームで面談でしたので、改めてお会いできてとても嬉しいです。卒業生の皆さんも本当に今まですごく頑張ってこられたのを近くで見てきたので、こうして今日卒業する日を迎えられて本当



加藤理事

に嬉しく思っています。竜の子財団に新しく入られた7名の皆さん、おめでとうございます。理事長からお話があった通り、お互いに縁があって竜の子奨学生となったので、皆さんに交流を持っていただきたいです。皆さんの母国や文化は違いますが、お互いを理解しようとする気持ちを持つことが大切だと思うので、交流を深めていって仲良くなってもらえればと思います。改めまして卒業される皆さんと新しく入られた皆さんをお祝いして乾杯したいと思います。

さらに、卒業生の皆さんが、秋元理事長に感謝の気持ちを伝え、千羽鶴をプレゼントしました。

卒業生の尹詩軒さんが、次のように話しました。



秋元理事長と卒業生一同



毎年、卒業生は日本和装ホールディングス株式会社のご支援により着物を着て参加しています

この千羽鶴は、我々の感謝の気持ちを表しています。コロナのため、あまり理事長とお話する機会がなかったので、直接感謝を伝えたいと思います。日本に来た頃は、理事長がおっしゃったように、いつもバイトに追われ、思うように研究ができませんでした。でも、財団の支援を受けるようになり、研究に集中でき、卒業もできました。本当に心から感謝しています。ありがとうございました。

閉会の挨拶

コロナ禍で、なかなか会ったりすることのできない状況です。どうか「蔓延防止」が解除されて、こうしてギリギリで会えて、一緒に過ごす時間ができて非常に良かったと思います。学生たちの日頃の行いのおかげで、



池田さん

ギリギリ蔓延が解除されて、楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。非常に嬉しく思います。加藤さんが宿をどうしようか迷っていたので、一番眺めのいいところを取ってあげて下さいと言いました。この後、泊まる方は眺めを楽しんで下さい。出資は理事長です。この後帰る方もいると思います。ご飯を食べに行く方もいると思います。帰る方は気をつけて帰って、泊まる方はゆっくり寝て下さい。こういう感じで締めさせて下さい。皆さん今日は、ありがとうございました。

(担当：令和4年度竜の子奨学生 名古屋大学 權 燾宰、
令和3年度竜の子奨学生 一橋大学 張 惜来)



令和四年度新入生紹介 「座右の銘」

「石走る垂水の上のさわらびの萌え出る春に」、竜の子大家族が7名のピチピチとしている新入生を迎えました。奨学生同士の交流を通じて、お互いの日常の悩みを打ち明けたり、ストレスを解消したりできます。自分への励ましや戒めのために、日頃から心に留めておく言葉をどなたでもお持ちでしょう。こちらでは、新入生の皆さんの「座右の銘」をご紹介します。



ラオ チュンホン

(カンボジア出身)

北海道大学

工学院建築都市空間デザイン専攻 修士2年

私の座右の銘は「一期一会」です。なぜこの言葉が好きなのかというと、「誰かとの出会いが自分を変えるきっかけになるかもしれない」からです。「一期一会」を大切にすることで、出会った人と話し、交流を深めることにより、今までの自分にはなかった「新たな考え方・価値観を得られる」チャンスが生まれるのです。それらがすぐに役立たなくても、将来、何かを判断する場面に遭遇した時、選択肢の中のひとつとして活用でき、自分の望む方向へ人生の舵を切ることができる確率が高まります。「一期一会」の言葉を大切に、これまでいろいろな人と出会ったり、機会をいただいたりして、自分の夢を追いかけてきました。だから、これからも夢を描き続け、「一期一会」でどのような人との出会いも大切にし、縁を繋いで多くの人と関わりながら、日々を大切に過ごしていきたいと考えています。



クォン ヒョッチェ
權 懔宰

(韓国出身)

名古屋大学

工学研究科機械システム専攻 修士1年

私の座右の銘は「謙虚な姿勢で努力を続ければ、結果は自然と生まれる」です。これは私が好きなサッカー選手であるクリスティアーノ・ロナウドの言葉です。私がこの言葉を座右の銘にしたのは高校の時です。私の高校時代は受験勉強で辛い時期でした。そのような中、偶然ロナウドの自叙伝を読んで、彼もトップクラスのレベルに上がるまで数多くの努力と失敗を経験したことが分かりました。彼は自分自身を信じて誰よりも着実に日々練習を重ね、良い結果を信じて前向きに努力していました。彼のことを知ったのは既に有名なクラブに所属してからですので、生まれつき才能があって成功したと思っていた私にとって彼の名言は大きな力になりました。

おかげで、高校時代を無事に乗り越えることができ、今も困難にぶつかるたびにこの言葉を思い出します。些細なことに一喜一憂するのではなく、謙虚な心構えで努力を積んでいけば、きっと望む結果が得られると思います。



テイ ショウ
鄭 翔
(中国出身)

東京大学
大学院新領域創成科学研究
科 国際協力学 修士2年

私の座右の銘は「牛のようにずんずん進め」です。とにかく俊敏に優雅に突き進んでいく馬になりたがる人が相対的に多いかもしれませんが、あせりやすい私は、牛のように良い根気を持ちながら、落ち着いて、人生を歩くように生きていきたいと思っています。夏目漱石が、自分の門下である芥川龍之介と久米正雄に宛てた手紙に書いた「…あせってはいけません。頭を悪くしてはいけません。根気ずくでお出でなさい…」という教えから大きなインパクトを受けました。この手紙は1916年に送られたものですが、それから106年経った今聞いても良い話だと感じます。目的に無理やり突き進んでいくのではなく、進んでいる途中で周りの景色を見ることが重要ではないかと思いました。

私の夢はボストンのハーバード・ケネディスクール (Harvard Kennedy School) で博士学位を取ることです。勿論それはとても困難なことです。健康と幸福を優先し、「のんびりしている」という考え方を「余裕を持つ」に変え、焦らずその目的地にたどり着くように歩いていきたいです。



マリカーラチュチ チャーミラ
(スリランカ出身)

早稲田大学
国際コミュニケーション研
究科 修士2年

私の好きな言葉は「月」(つき)です。その言葉を好きになった理由は、「月を狙って下さい。逃したとしても、他の星々のいずれかに着陸するでしょう。」(“Shoot for the moon. Even if you miss, you'll land among the stars.”)という英語での表現が好きだからです。特定の目標を達成できない場合や、成功することができない場合でも、ある程度までは達成することができるでしょう。諦めずに挑戦し続ければ、いつかは目標を達成できるようになり、月に到達するでしょう。月を狙って挑戦し続ければ、少なくとも他の星にたどり着くので、失敗ということはありません。

また、月は欠けている時、空に輝いています。月が見えない暗い日でも、数日経てば月が必ず昇るのはわかっています。闇は一時的なものであり、いずれ光が見えてくることを私たちは知っています。月は私たちにこの事実を教えてください。人生に暗い日があっても、いつか明るい日になるでしょう。いつか闇が明るさに変わるでしょう。

このような理由から、「月」は私の好きな言葉の1つなのです。



ホウ コウヘイ
彭 浩萍 (中国出身)

東北大学
医学系研究科保健学専攻
修士2年

私は「私は自分の状況の産物ではなく、自分の決定の産物である」という言葉が好きです。

初めてこの言葉を聞いた時に、人間の能動性は自分自身が思うよりももっと高くかつ重要だと感じました。

人生においては誰でも困難な状況があり、大事なのはどのように対応するかということです。その態度と行動が自分を造っていくと思います。この言葉は「人間は考える葦である」という名言と同じように、人間は葦のように弱い存在だが、思考力があるからこそ、偉大な力を持つことができることを意味しています。どんな人になりたいかを考えて、そして自分の決定に責任を持ち、より良い選択ができるのは人間だけだと思います。

この言葉は私の支えとなっています。留学し、将来は国際看護業界の交流と発展に少しでも役立つ人になれるよう、堅実に歩んでいきたいと思っています。困難な状況に直面しても負けないよう常に自省しながら進む道を決めていきたいです。



キ シュクヘイ
紀 淑平 (中国出身)

東京電機大学

工学研究科 物質工学専攻

修士2年

私の座右の銘は「失敗は成功のもと」です。

成績表で赤点を取った時、研究で壁にぶつかった時、あなたは悔しさばかりを感じていませんか？ 失敗の中に、成功の種があることに気づいていますか？「失敗は成功のもと」という言葉の本当の意味は、失敗のない成功は真の成功とはいえないということです。失敗を積み重ねることによって、成功への道が開けると言えます。失敗することで、その失敗の原因を考え、反省し改善をしていくので、失敗は次の成功をもたらす原動力になります。つまり、失敗は人生における最大のチャンスだと思います。

私は現在、機能性を持つ高分子材料の研究をしています。日々の研究は、必ずしも良い結果が得られるとは限りません。良い結果が出ない時は、失敗した経緯をまとめ、その原因をきちんと考察して、次の研究で良い結果に結びつけていきたいと考えています。

これからの人生においても成功しても驕らず、失敗しても落胆しない姿勢を保って、輝く未来を手に入れたいと思います。



テ エ ラ グ ル ジャナット
TAERAKUL Janat

(タイ出身)

東京工業大学

環境・社会理工学院 学部

4年

私が初めて日本に来た時、茶道について学ぶ授業がありました。その授業で初めて「一期一会」という言葉を聞き、とても不思議な言葉だと思いました。「一期一会」とは、「一生に一度しかない出会い」という意味です。意味は単純だけど、とても不思議だと思います。私にとってこの言葉は、人生の一瞬一瞬を、そして訪れる機会を逃さないことを意味しています。人間の一生は短くはないですが、長くありません。人との出会いだけでなく、何事も機会があれば掴むべきだと考えています。高校時代、日本に留学するかどうか迷ったことがあります。その時、一期一会という言葉はまだ知りませんでしたが、日本に留学できるチャンスは人生で一度きりかもしれないと思って、日本に来ることにしました。あの授業でこの言葉を習って、これは私の考え方と一緒にすぐに気づきました。今まで出会った人たちとこれからの出会いの機会を大切にできるように頑張ります。

(担当：令和4年度竜の子奨学生 東京大学 鄭 翔)

竜の子近況報告



淡路島にて

キ エンエン
冀 媛媛 (中国)

名古屋大学 人文学研究科
人文学専攻 博士3年

「花火が見られました！」

私は日々博論の執筆、家事、雑用などに追われています。最近は湿度が高く、日差しも強く、夏本番という感じがして、身体もそれに反応して、だるくなりがちです。天気の関係もあるかもしれませんが、以前のように運動して体力をつけなければと思いました。先日、名古屋の港区で花火大会がありました。久々に友達と一緒に、おやつなどを食べながら、綺麗な花火が見られてとても楽しかったです。これからも引き続き頑張ります！



第31回YOSAKOI
ソーラン祭り

ラオ チュンホン (カンボジア)

北海道大学 工学院研究科
建築都市デザイン専攻 修士2年

「YOSAKOIソーラン祭り」

現在、私は修論の現地調査に向け、プレ調査や資料などの準備に追われています。札幌は、最近暑くなってきて、雨もちょこちょこ降っていました。先日、札幌大通公園を中心に行われた第31回YOSAKOIソーラン祭りに行ってきました。北海道に来てから、初めて参加しましたが、意外と面白く楽しかったです。これからも、修士論文を頑張しながら、最後の学生生活と北海道ならではの自然景観を楽しみたいと思います。



ハリウッド映画「ラストサムライ」
ロケ地の九十九島にて

オウ カネイ
王 佳寧 (中国)

北海道大学 教育学院
教育行政学専攻 博士3年

「九州の旅」

修士時代の親友が日本での仕事を辞めて中国に帰国することになり、彼女と3年前に約束した「卒業旅行」を予定を早めて行ってきました。日本における4つの主要な島（北海道、本州、九州と四国）の中で九州は唯一行ったことのない島だったので、九州の長崎と熊本を旅先を選びました。コロナの影響で、観光客はそれほど多くありませんでした。長崎のカステラを食べながら、九十九島の絶景を望むのは本当に最高でした。研究面については、最後の博論の完成まで頑張っていきたいと思います。



愛媛県の下灘駅で（映画「千と千尋の神隠し」の着想の源）

シュレス タ シ モ ナ
SHRESTHA SIMONA (ネパール)

立命館アジア太平洋 アジア太平洋学部
学部4年

「最後の学期」

私は今、大学での最終学期を迎えています。最近はTA活動や卒論の仕上げで忙しくしています。学部の卒論を仕上げるために、インタビューをしたり、資料を調べたりしています。また、卒業や大学院進学準備も行っています。大学生活最後の学期ということで、友人と新しい場所に旅行もしています。最近では、四国の愛媛県に行ってきました。愛媛県は田舎で、とても自然がいっぱいきれいでした。内なる平和を見つけられ、卒論と卒業に向けて頑張ることができそうです。



富士山河口湖

ホウ コウヘイ

彭 浩萍 (中国)

東北大学 医学系研究科
保健学専攻 修士2年

「自然を満喫しました」

先日、二年前の友人との「一緒に富士山を見に行きましょう」という約束をやっと実現できました。晴れた日に、富士山をぐると眺め、湖は魚の鱗のように光り輝き、緑に囲まれ、本当に癒されました。久しぶりの外出で、体も心も充電でき、いい体験でした。

研究の方は、統計学に力を入れており、現在はデータ分析を進めています。また、修士論文執筆も完成に向けて頑張ります。



松本城前で

ゾウ カシン

鄒 可昕 (中国)

京都大学 人間環境学研究科
人間環境学専攻 博士1年

「松本旅行」

四月から博士課程に入学し、想像以上に忙しい生活が始まりました。

現在、研究室のTAとRAとして、毎日新入生たちに実験手法やスライドの作り方等、色んなことを教えています。自分の研究も新発見があり、いまコツコツとやっています。また、最近は忙しくてあまり出かけていなかったのですが、四月の中旬に、友達と一緒に松本市に旅行に行きました。桜が満開だったので、国宝松本城だけではなく、市内いくつかの桜の名所も巡り、楽しむことができました。



北野異人館の「風見鶏の館」

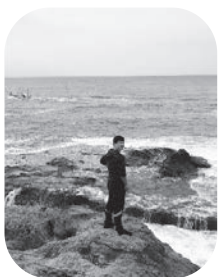
クォン ヒョッチェ

權 赫宰 (韓国)

名古屋大学 工学研究科
機械システム工学専攻 修士1年

「神戸に行ってきました」

私は最近研究活動が忙しくなり、毎日のように研究室に出ています。忙しくなる前に、未だ行っていない地域を旅行しようと思い、神戸に行ってきました。メリケンパークや北野異人館は歴史がそのまま保存されていてとても印象深かったです。そして南京町で色んな中国料理の食べ歩きもしました。今学期末に研究発表が終わり余裕ができたから、まだ行ったことのない県をまた旅行してみたいです。



江ノ島の周辺

キ シュクヘイ

紀 淑平 (中国)

東京電機大学 工学研究科
物質工学専攻 修士2年

「江ノ島に行きました」

私は最近就職活動や自分の研究に追われています。忙しい生活にも慣れましたが、気分転換をするため、先日、江ノ島に行きました。江ノ電に乗ったり、海の近くを散歩したり、美味しい料理を食べたりしました。湘南を舞台にした私の一番好きなアニメ「スラムダンク」を思い出して、主人公の桜木花道君と同じように、やる気満々になりました。これから企業の最終面接、研究を一生懸命に頑張ります。



ポスター前で指導教員と一枚

サイ レイ カ
崔 麗華 (中国)

京都大学 農学研究科
森林科学専攻 博士3年

「学会現地参加」

去年まで2年連続オンラインで行われた造園学会が、やっと今年から現地でも開催されるようになりました。コロナ禍が終わったわけではないですが、これからコロナとの付き合い方がもっとうまくいそうな気がして少し気持ちが楽になりました。さて、久しぶりの学会現地参加ですが、なんと北海道大学で行われたので、札幌に飛びました。気のせいかもしれませんが、私を含めてみなコロナ前よりも積極的に議論したような印象を受けました。昼休みには北大の王さんにも会って「一緒に博論頑張ろうね」という話もしました！



独身最後の日

ホセイニルテ セイエドシャリヤル (イラン)

東海大学 工学部
建築学科 学部4年

「結婚しました」

私は最近、卒業論文や内定が決まっている会社のことでとても忙しいですが、7月7日に結婚しました。7月7日は七夕の日です。この日は愛の日ですし、7、7はラッキーな数字ですから、この日に結婚しようと思いました。これから結婚式の準備や卒論などで、さらに忙しくなりますが、結婚したら人生が大きく変わるので、これからも頑張ります。皆さんも結婚して幸せな家族を作ってください。



遠くの景色を眺めながら温泉を満喫できた

ヨウ ジョ
楊 茹 (中国)

九州大学 生物資源環境科学府
環境農学専攻 博士3年

「2本目の論文で苦戦中」

暗い話はしたくないのですが、うまくいくと思っていた2本目の論文がリジェクトされたため、最近論文を書き直しているところです。挫折感もあり、少し落ち込んでいます。しかも焦りすぎているせいか、論文の進捗状況が遅く感じます。友人に相談したところ、「将来、振り返った時に今の状況は長い人生の一瞬に過ぎないし、あなたなら乗り越えられるよ」と励まされ癒されました。このままではよくないと思い、気分転換のために土日はオシャレして海や温泉に行ったりしています。



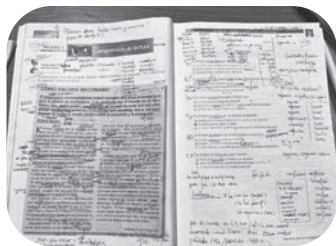
練習中

テ エ ラ グ ル ジャナット
TAERAKUL JANAT (タイ)

東京工業大学 環境・社会理工学院
融合理工学系学科 学部4年

「新曲のベース練習」

今年は4年生になって授業数が減り、空いた時間を研究と就職活動に使っています。研究と就職活動を並行していると、たまには息抜きも必要になります。私は音楽が好きなのでギターやベースをよく弾いています。最近まで放送していた「スパイファミリー」という大人気のアニメをみていたのですが、「ミックスナッツ」というオープニング曲をカバーしたいと思っています。テンポが速くてちょっと難しいですが、練習して少しずつできるようになりました。完璧にできたらYouTubeに投稿します。



DELE B2の試験準備

ティ ショウ

鄭 翔 (中国)

東京大学 新領域創成科学研究科
国際協力学専攻 修士2年

「猛勉強中」

ここ数ヵ月ずっと、DELE (Los diplomas de Español como Lengua Extranjera) のB2レベルを目指して試験準備をしています。週に28時間ほどしなければいけないアルバイトの合い間に、研究と試験のための猛勉強をしています。研究は自然災害についてで、最近学会へ論文を発表できるように投稿しています。貴重な土曜日と日曜日はもちろんスペイン語の読解、聴解、作文と会話の問題練習に使っています。



高幡不動のあじさい花祭り

マリカーラチュチ チャーミラ (スリランカ)

早稲田大学 大学国際コミュニケーション
研究科 修士2年

「近所のツツジ」

あっという間に夏本番ですね。近所では、ツツジの花の見頃が終わるとあじさいが咲きます。日本では花が咲かない時期はないとおもいます。季節ごとに咲く花々の中で、私はツツジが大好きです。今年はツツジまつりを見に行く予定でしたが、残念なことに間に合わなくなってしまいました。でも近所のツツジが満開になった時、写真を撮ったり、ツツジの間を歩いたりして楽しむことができました。来年のツツジ祭りは必ず見に行こうと決めています。



みなとみらいで観光

チョウ シライ

張 惜来 (中国)

一橋大学 経済学部4年

「アメリカに行きます」

私はこの8月、アメリカにあるカリフォルニア大学バークレー校に、5ヵ月の間交換留学に行きます。アメリカでは、世界トップレベルの学生たちと触れ合い、いい刺激を受けられると思います。異なる文化の理解と付き合い方をさらに勉強し、将来はグローバルで活躍できる人材になりたいと思います。最近、ビザの申請や、寮の手配などの準備で忙しくしています。

竜の子(OB・OG)近況報告



家族3人 in シンガポール

リム ヤンクアン (マレーシア)

名古屋大学卒業

「シンガポールで元気にやっています！」

日本を離れて5年目になりました。今シンガポールの日系化学会社に勤めています。子供も2歳半になりましたので、仕事後、子供と遊んで毎日楽しく過ごしています。コロナの規制が緩和したら、OB・OG会に参加できることを楽しみにしています。



タイの山の中にて

トープラサーポン タナワット (タイ)

東海大学卒業

「2年ぶりの旅行」

皆さん、お久しぶりです。卒業後8年が経ち、今はタイに帰国しています。旅行とカメラが大好きな私は、2020年からコロナで外出が難しくなり寂しく思っていました。今年からやっとタイ国内旅行ができるようになりました。2年ぶりの旅行なので、新しい景色や雰囲気を楽しみたいと思い、山に行ってみました。人が少なく静かでとても落ち着いた気持ちになりました。タイには自然が美しいスポットがたくさんあるので山歩きは新しい趣味になるかもしれません。

コロナの状況が良くなったら、外国にも旅行に行きたいです。また、日本に行ってOB・OGの皆さんと会いたいです!!



北京大学の
未名湖にて

リョウ ギョウエキ
梁 曉 弈 (中国)

京都大学卒業

「新入教員として教育・研究に頑張っている」

ご無沙汰しております。2019年に京都大学を卒業して、北京大学で二年間のポストドク研究員を経て、昨年末に同大学の助理教授になりました。学部時代の古巣だったこともあり、新入感はあるものの、学生から教員への立場転換には未だに慣れていませんし、新入教員として教育・研究に励む毎日です。

また、会誌が発行される頃に、直近の研究論文が掲載されることになると思います。ネット公開されていると思いますので、ぜひご覧ください。

リンク先 <https://www.nichibun.ac.jp/ja/publications/data/nike/>



仕事時の姿

ソウ キシュン
曾 毅 春 (中国)

一橋大学卒業

「イギリスに転職しました」

竜の子財団の皆さん、お久しぶりです！

今年の春に3年間働いた新卒入社の会社を退職して、イギリスに転職することになりました。今はロンドンで日本株への投資を担当するアナリストとして働いております。10年間住んでいた日本から一旦離れることになりましたが、海外にきて初めて日本での経験は本当に自分の人生の財産だと強く感じました。今は毎日英語、日本語そして中国語を生かして日本企業を分析し、日本経験のない人が分からない日本企業の魅力を社内で発信しております。コロナが落ち着きましたら、また出張等で日本に戻ることも多くなると思いますので、財団の皆さんに再会できるのを楽しみにしております。

SPECIAL REPORT I

● 私の日本での大学生活 ●

私はホセイニルテ セイエドシャリヤルです。イラン出身です。日本で建築について学びたいと思い、留学にきました。日本に来てからまず東海大学の日本語学校に入学して1年半日本語を学びました。日本語学校では、様々な国の留学生がいたので、いろんな文化に触れることができました。日本語学校の学生は全員東海大学の寮で暮らしていて、一日中一緒にいたので、すぐに仲良くなり兄弟のような関係になりました。週末には寮でパーティーを開いて楽しみました。



日本学校の寮のパーティー

日本語の勉強は難しかったですが、友達と協力し合って読み書きができるようになりました。毎年大学で日本語のスピーチコンテストが開催されているのですが、日本語学校で学んだことの成果を十分に発揮することができ、優勝することができました。ですが、漢字は難しく今も勉強中です。



日本語のスピーチコンテスト

日本語学校を卒業した後、私は東海大学の建築学科に入学しました。大学は日本語学校とは違いほとんどの学生が日本人で、授業の日本語のスピードが速く、聞き取ることだけで精一杯で理解することは難しかったのですが、日本人の友達を作って授業終わりに教えてもらうことができたので、何とか授業についていくことができました。私には仲の良い日本人の友人が2人いて、1人は社会人になり、もう1人は大学院生です。2人とも今でも連絡を取り合っている中で、たまに会って遊んだりもしています。私は、この2人と友達になれたことがとても嬉しいです。私が大学を卒業しても、この2人



大学でできた優秀な日本人の友人

日本語の勉強は難しかったですが、友達と協力し合って読み書きができるようになりました。毎年大学で日本語のスピーチコンテストが開催されて

日本語学校を卒業した後、私は東海大学の建築学科に入学しました。大学は日本語学校とは違いほとんどの学生が日本人で、授業の日本語のスピー

ードが速く、聞き取ることだけで精一杯で理解することは難しかったのですが、日本人の友達を作って授業終わりに教えてもらうことができたので、何とか授業についていくことができました。私には仲の良い日本人の友人が2人いて、1人は社会人になり、もう1人は大学院生です。2人とも今でも連絡を取り合っている中で、たまに会って遊んだりもしています。私は、この2人と友達になれたことがとても嬉しいです。私が大学を卒業しても、この2人とずっと仲の良い関係でいたいです。私たち3人がそれぞれ結婚したら、家族同士で交流することが私の夢の1つです。

一方で、勉強だけではな

く大学の学費や生活費についても考えなければなりませんでした。私は、学費も生活費もすべて自分でどうにかしなくてはなりませんでした。私は大学2年生の時に多くの借金を抱え、生活することが厳しくなりましたが、竜の子財団様の奨学金を頂くことができて生活を切り替えることができました。今私は大学4年生で、卒業研究をしながら卒業論文を書いています。研究内容は、ジオポリマーコンクリートについてです。この研究は、東海大学では初めて行う内容なので、自分で一から進めていかなければなりませんでした。私は、アルバイトを週4日しているので、大学には週に2日しか行くことができません。そのため、大学に行く日は朝の9時から夜の11時まで研究をしています。



また私は、大学3年生の後半から最近まで就職活動を行っていました。たくさんの経験を積みたいので、大きい会社に行く決めていました。私が今やっ



私が作ったジオポリマーコンクリート

ているアルバイトは、建築に関わる仕事内容で、就職活動を始める前から行きたい会社は決まっていた。私は、その入社したいと思っていた会社に就職が決まり、来年の4月から働くことができます。その会社では現場の施工管理の仕事をします。アルバイトでの経験を活かし会社に貢献し、新たに様々なことを学びたいと思っています。

私が、無事大学を卒業することができるのは、竜の子財団様のおかげです。私は、大学2年生の時にお金が無くなり、イランに戻ることを考えていましたが、こうして戻らず大学を卒業することができるのが本当に嬉しいです。私は日本がとても好きなので、これからも日本で働いて、日本に住み続けたいと思っています。そして、これからもずっとお世話になったことを忘れません。もし、私がお金持ちになったら、私のようにお金に困っている学生を助けたいと思っています。本当にありがとうございます。

SPECIAL REPORT II

● ネパールのネワリ文化 ●

ネパールは非常に多様な国であり、多くの民族やカーストが存在し、たくさんの言語が話されています。ネパールには少なくとも126の民族が存在し、122の言語が話されていると言われています。

このレポートでは、私の出身である先住民族、ネワール族（Newar）について紹介したいと思います。ネワール族（ネワリ人）は、古くからネパールの首都カトマンズに住む民族です。彼らは7世紀からカトマンズに住んでいます。カトマンズ渓谷のほか、周辺の丘陵地帯にも住んでおり、ネパールの文化、芸術、料理、農業に影響を与えてきました。ネワリ人はネパールバサ語またはネワール語（Nepal Bhasa/Newari）と呼ばれる独自の言語を話します。ネワリ人の宗教はヒンドゥー教と仏教です。しかし、宗教的なアイデンティティーは、彼らの文化、習慣、慣行にほとんど影響しません。

ジャトラという祭り（Jatra）

ネワリ人の文化に欠かせないのが、カーニバルやストリートフェスティバルのような「ジャトラ」です。渓谷の様々な地域から旧市街地に人々が集まり、神を乗せたチャリオット（戦車）を引きます。このジャトラが行われる時には、多くの音楽、踊り、お祭りがあり、ジャトラによっては5日間から1ヵ月間行われることもあります。

カトマンズ渓谷の最も有名なジャトラの一つはイェンヤ（Yenya）またはインドラジャトラ（Indra Jatra）と呼ばれるものです。イェンヤの祭典はカトマンズの旧市街地で8日間にわたって行われます。このお祭りは、10世紀にカトマンズの街ができたことを記念して始められたと言われています。ネパールの最大のストリートフェスティバルです。神や悪魔の仮面舞踏が路上で演じられ、寺院に描かれた神々の昔話が野外劇で演じられ、3台のチャリオットが市内を曳き回されます。このチャリオットの面白いところは、中に入っている神々が生きている人間であるということです！ネワリ人の文化では、クマリ（Kumari）という生きている女神を崇拝しており、この祭りで彼女を祝福するのです。

自分自身を崇拝する文化

自分自身を崇拝する文化

ネワリ人の文化で非常にユニークな特徴は、自分自身を祝うということです。毎年、ティハールというお

祭りの4日目に、ムハ・プージャ（Mha Puja）という儀式を行います。ムハ・プージャは自己の崇拝と訳され、自分自身の中にいる神を称えるために行われます。この祭りは、自己の価値を祝い、自分の存在を大切にするものです。ネワリ人の新年に行われ、一年の繁栄を願い、自分自身を清めるために行われます。家族全員が集まり、曼荼羅（地面に蓮の花を丸く描いたもの）を作り、儀式を行い、ごちそうを食べるのです。

もうひとつ興味深いのは、「ジャンクー」（Janku）と呼ばれるお祝いです。これはネワリ人の人生において非常に重要な祝い事です。106歳まで生きることができれば、一生のうちに5回祝うことができます。この儀式でお祝いされると、人は神とみなされます。健康上の問題が生じやすい時期に、人生の吉兆を祝うという意味で重要視されています。祝われる人は家族によってカラフルなチャリオットに乗せられ、町中を走ります。



ムハ・プージャの時の従姉妹と私（手前にあるのはマンダラや儀式に使うものです）

ジャンク	歳
第1回	77歳 7ヵ月 7日
第2回	83歳 4ヵ月 4日
第3回	88歳 8月 8日
第4回	99歳 9月 9日
第5回	105歳 8月 8日（生涯で1000回の満月を見た後）

ここでご紹介した以外にも、ネワリ文化にはたくさんのお祭りや興味深い儀式があります。様々なお祭りが隔週で行われ、重要な儀式によって生涯を通じて祝われます。皆さんもぜひネパールに来て、これらのユニークで面白い文化を体験してみてください。



祖父の1代目ジャンク（赤いドレスの女の子は私です！）



ネパールのネワリ建築を含む寺院・建築物



イェンヤで曳かれるクマリ女神のチャリオット

編集後記

委員長 北海道大学 ^{オウ カネイ} 王 佳寧

この度、第29号の編集委員長を担当させていただきました。会報誌を編集するのは2回目ですが、委員長は初めてで大変貴重な経験することができました。今回は近況報告を担当しました。奨学生一人一人の投稿を読んで、皆さんは元気でよく頑張っているなあと、私自身も元気になることができました。今回の編集にあたって大きな力を貸していただいた編集のプロの方々、一緒に編集を担当した仲間、そして協力してくれた竜の子奨学生の皆さんに本当に感謝します。皆様のご協力で無事に会報誌を完成することができました。竜の子財団の関係者の皆様楽しく読んでいただけたら、大変嬉しく思います。

東海大学 ^{ホセイニルテ セイエドシャリヤル} ホセイニルテ セイエドシャリヤル

皆さんこんにちは。東海大学工学部建築学科のホセイニルテ セイエドシャリヤルです。先日、皆さんと久しぶりに話ができて嬉しかったです。皆さんは、現在大学生活で忙しいと思います。私も卒業論文の提出間近でとても忙しいです。卒業論文を提出するのは後少しですからその後皆さんとの交流会を楽しみにしています。最近またコロナが多くなったので皆さんも健康に気をつけて勉強を頑張りましょう。宜しくお願いします。

委員 一橋大学 ^{チョウ シライ} 張 惜来

今回は交流誌の編集に参画することができ、とても光栄に思います。私が担当するパートは、卒業生代表挨拶から閉会までの原稿でした。月に一度、仲間の奨学生たちと話すことができ、とても嬉しく思いました。みんなで協力し合って、良い結果を出せたと思います。たくさんの方のアドバイスをくれた編集のプロの方々にも、とても感謝しています。交流誌を楽しんでいたのなら幸いです。

委員 立命館アジア太平洋大学 ^{シュレスタ シモナ} シュレスタ シモナ

皆さんこんにちは。第29号竜の子奨学生会報誌の編集委員を務める機会がありました。全員忙しくても、このニュースレターを作るために、みんなで話したり、集まったりすることができました。奨学生の皆さんが現在頑張っていることを読んで、とてもやる気が出てきました。個人的には、ネパールの文化に関するSpecial Report IIを書きました。楽しみながら読んで下さい。最近、コロナ感染症が流行っていますが、皆さんもお気をつけ下さい。皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。よろしくお願いします。



第三回編集会議

委員 名古屋大学 ^{クワン ヒヨツチエ} 權 懋幸

今回初めて竜の子奨学生会報誌の編集委員を担当させていただきました。座右の銘や近況報告などを書くことは普段の自分の考え方や生活を振り返る大切な機会になりました。また、初めて会報誌を読んだ時どのように作られるのか気になっていましたので、実際に制作に参加できて良い経験になりました。編集会議はズームではありませんでしたが、徐々に皆さんにお会いできてよかったです。次の交流会で直接お会いしたいと思います。



第二回編集会議

委員 東京大学 ^{タイショウ} 鄭 翔

こんにちは。東京大学新領域創成科学研究科国際協力学の修士二年生、鄭翔（テイショウ）です。今回は令和四年度新入生紹介の編集委員をご担当させていただきました。光栄に存じます。皆様の座右の銘や顔写真を収集することで、新入生たちと連絡ができていました。コロナ禍で皆様と直接お会いすることがなかなかできていないようですが、今回の編集によって皆さんの人柄をある程度感じまして親しくなりました。また、九月の交流会で皆様とのコミュニケーションを取ることに期待しています。何卒よろしくお願い申し上げます。



第一回編集会議



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず